
魔法少女リリカルなのはS T S 創造の主

リリース!!

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

魔法少女リリカルなのはS T S 創造の主

【Nコード】

N 2 9 5 0 Q

【作者名】

リリース!!

【あらすじ】

どうもはじめましてリリース!!です
自分には文才がなく駄文になってる可能性があります
それがダメなら「戻る」ボタンを
それでもいいのなら楽しんで行ってください
出来るだけ早く書くようにします

プロローグ（前書き）

見ることをしていただきありがとうございます
今回は主人公は出ません
次から主人公は出ます

プロローグ

これは別の世界の記録である

昔々、まだこの世には戦などはなく

魔法を使つた戦もなかった時代

人々は魔法を使い物を作る技術発展させ

家や道、金属や宝石などを作っていました。

そして、いくつもの国が生まれました。

しかし、あるとき何処からか戦を好むものが現れ

その者は人々をだまし、戦わせたりしました。

そして、数年後には、物を作る技術は消え去り

国同士の大きな戦いが、

魔法を打ち合い

魔法が撃てなくなつたら武器を使い

多くの人が殺し合う世の中ができていました。

それから、多くの血が流れ、ひとつの国が残りました。

そして、争いがなくなつたかに見えた世に悲劇が起りました

その国の王は戦いを始めさせた男の国でした。

王は戦がなくなると、次は国民を殺し始めたのです。

民たちは恐怖しました、

なぜなら王は見たこともない魔法で民を次々と狩っていったからです。

一人、一人、次々と民は死んでいきました。

しかし、民の中に王と戦う者が現れました。

その者は消え去つたはずの魔法を使い王と戦いました

その者の作り出すものは王の魔法を止め打ち消し

王の魔法はその者へ届きません。

王の負けは決定しました。

しかし、王は、殺されるなら道連れにその者も、そういつて

魔法を放ちました。

その魔法は術者の命を使いまわりを吸い込む呪文でした

その魔法の前にはその者の魔法も意味はなく

その者はその呪文へと吸い込まれたのです

そして、魔法が消えるとその場には何もなく

それを遠くから見ていた民たちは王がなくなったのを喜び

その者が消えたのを悲しみました。

そして、世界は平和になった。

プロローグ（後書き）

次より主人公が出てきますが
まだ名前が出来てない・・・
早めに決めて書くようにします

過去（前書き）

主人公の名前募集したいけど
仕方が分からない・・・

過去

「ここは・・・、どこ？」周りを見渡すと、木や草に囲まれていてよくわからない。

ならばせめて自分は何なのか思い出そうとしたが、

「僕は、どうしてこんなところに・・・、確か僕は・・・なんだっけ？」と、

まあ、この通り思い出せなかった・・・

（僕は・・・）と思っていると、

「おい、お前！！　ここで何をしている！？　」と怒気をはらんだ声が聞こえた。

僕は、声のするほうを向くと変な服の人がそこに構えて立っていた。

「わ、わかりません・・・」と答えると、

「ふざけるな！」と怒鳴られた。

（うう・・・変な服の人怖いよ・・・）と泣きそうになった時に後ろから

「姉さん少し待ってくれ！！」と別の声が聞こえた。

目の前の変な人は、「チンクか、どうしてだ？　なぜ侵入者を始末してはいけないんだ？」と
後ろの声に聞くと、

後ろにいたまた別の小さな変な服の人が、

「ドクターがそいつをラボにつれて来いと言ってる」と答えて、僕の後ろに来た。

変な人は「ドクターが？　・・・わかった」とチンクと呼ばれた小さな変な服の人に向かって言った。

そして、僕は「お姉さんチンクって言うの？」と現状をまだよく理解していなかった。

チンクさんは「ああ」あきれながらも返事をしてくれた。

変な服の人が「おい、そのお前、悪いが暴れずに付いて来て貰うぞ」と言われ俺は「・・・はい」と返事をした。

二人に連れられて何分たったかわからない、森を抜けてすぐに洞窟があり、その中を現在歩いていた。

「あのー、ここはいつたい？」と小さな変な服の人に聞いてみた。

「ここは、私たちの家だ」と答えてもらい、「え、そうなの！？」と驚いた。

それから、またしばらく無言で歩き続け、それから5分ほど歩くと、目の前に扉があった。

「ここに入ればいいの？」と聞くと、「ああ、ドクターがお待ちだと返事してくれた。

（ドクター？ 誰だろう？ 変な名前・・・）と思いながらも、扉の奥へと歩いていった。

中に入ってみるとたくさんの機械とそれを使っている人がいた。

「ドクター、連れてきました」と変な服の人が奥にいるおじさんに話しかけた。

おじさんは「トーレ、チンクありがとう」と言ってこっちにきた。

「はじめまして、私の名前はジェイル・スカリエッティだ、君の名前は？」と聞いてきた。

「実は・・・その・・・分からないんです・・・」と答えると、

おじさんは「記憶喪失かい？ それは困ったね、君には聴きたいことがあったんだけど・・・」と悩み始めた

僕はそれを見て「すみません・・・」と謝った。

おじさんは笑って「いや、別に謝らなくてもいいよ」といつてくれた。

そして、おじさんは「あ、そうだ」と何か名案でも思いついたのだろうか、万遍の笑みを浮かべて

僕に「君、一緒にすまないか？ 衣・食・住は保障するよ？」と聞いてきた。

突然すぎるというか予想外すぎて僕もチンクさんたちも「・・・は？」と言っていた。

過去（後書き）

次の話はいつかけるだろう・・・

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2950q/>

魔法少女リリカルなのはS T S 創造の主

2011年1月26日11時38分発行